

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レ ベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/k㎡	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/k㎡
生態	1	祖母山・傾山・大崩山周辺	・原生的な天然林が相当数まとまり貴重動物が生息している ・山地帯にはブナ林、山頂一帯にはヒメコマツ	1~4	○	・シカ柵(ネット、金網) ・シカ捕獲(署、一斉捕獲、わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②必要に応じて新たな柵を設置  【捕獲】 ①奥地森林における捕獲を実施  【裸地化による土砂流亡への対応】 ①緊急性の高い箇所があるか検討	大崩山の表土流亡あり	30~50以上	3	
生態	2	綾	比較的規模の大きな日本を代表する照葉樹林で希少植物種も多く生育している	2	○	・シカ捕獲(局署、一斉捕獲、わな協定)	【防護】 ①R2年度モニタリング結果を踏まえて、保全エリアを検討 ②下層植生の回復を図るために新たな柵を設置  【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕獲を実施		50以上	5	
生態	4	稲尾岳周辺	・亜熱帯から暖帯性までの原生的な照葉樹林 ・タカクマミツバツツジ等稲尾岳を南限とする植物、オオコマユミ等の稲尾岳を北限とする南方系植物がみられる		○	ツルマサキ、ナツエビネ等の分布南限種	・シカの動向に注意しながら、引き続きモニタリングを行う		1未満	5	
生物	4	白髪岳	・上部はブナ林が発達し山頂周辺はノリウツギ低木林となっている ・ブナ林はほぼ南限に近いと言われている	3-4	△	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(一斉捕獲、わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②必要に応じて新たな柵を設置  【捕獲】 ①奥地森林における捕獲を実施  【裸地化による土砂流亡への対応】 ①緊急性の高い箇所があるか検討		50以上	5	
生物	3	九州中央山地	・太平洋型ブナ林がまとまって分布し、一部に湿性タイプのブナ林がみられる ・石灰岩地特有の植物が数多く生育している	0~4	○	・シカ柵(ネット、金網) ・シカ捕獲(署、一斉捕獲、わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②必要に応じて新たな柵を設置  【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕獲を実施		25~50以上	5	

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レ ベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
生物	5	鬼の目山	・九州では屋久島以外で遺伝的多 様性の高い天然スギ地域集団として 貴重である ・ツチビノキ等地域固有な植生が 多い	3・4	○		・シカ柵(ネット、金網) ・シカ捕獲(署、一斉 捕獲、わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②必要に応じて新たな柵を設置 ③スズタケの移植検討(スズタケの 全域的な枯死が認められたため)		25未満	5
生物	9	霧島山	・キリシマミツバツツジ等の固有種 やミヤマキリシマの大群落等の日本 の重要な植物群落がある ・霧等火山活動により様々な遷移 段階の植生がみられ、学術的にも 貴重	3	○	ミヤマキリシマ大群落	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(署、一斉捕 獲、わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②必要に応じて新たな柵を設置  【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕 獲を実施		40～50以 上	5
生物	7	大森岳	ヤブツバキクラスを大面積に残す 地域で、湿度が高くフウラン等の多 様な着生植物や林床植物が生育 している	2	○		・シカ捕獲(署、一斉 捕獲、わな協定)	【防護】 ①R2年度モニタリング結果を踏ま えて、保全エリアを検討 ②下層植生の回復を図るために新 たな柵を設置  【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕 獲を実施		50以上	5
生物	8	猪八重照葉樹林	標高約250mから700m付近まで連 続している非常に発達した原生的 な照葉樹林であり、着生ラン等も生 育し生物多様性が高い	—	○		・シカ捕獲(わな協定)	①シカの動向に注意しながら、引き 続きモニタリングを行う ②必要に応じて柵を検討		—	—
生物	10	高隈山	尾根部には九州最南端部のミズナ ラ、ブナ林群落等の冷温帯落葉樹 林がみられ、温帯性動植物の南限 のものも多い	—	○	ブナ南限		・令和2年度モニタリング結果を踏 まえて、対策するか検討		1未満	5
生物	1	普賢岳	イタヤカエデ、ノリウツギ、ミヤマキ リシマ等の広葉樹低木林を中心と した植物群落の保存	—	△			・シカの動向に注意しながら、引き 続きモニタリングを行う		分布確認なし	—
生物	2	男女群島	・暖帯性広葉樹林であるが、亜熱 帯植物も自生している ・固有亜種など希少動物も生息し ている	—	○			・環境省等との情報共有し、必要に 応じて対策を実施		—	—

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レ ベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考		
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>	
生物	6	掃部岳	森林自然植生の特徴は、ブナ林の 実質的南限植生が、暖温帯の常 緑樹林であるヤブツバキクラスの 森林海の中にかろうじて残存して いる点である	3・4	○		シカ捕獲(局署、わ な、一斉)	【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕 獲を実施 ※林道が崩壊しアクセス困難		20~30未 満	5	
希少	1	英彦山 モミ等 遺伝資源	英彦山スギ等 遺伝資源	・鬼すぎ(天然記念物) ・群落(ケヤキ、スギ、モミ、ツガ、 カヤ-ミヤマシキミ-クマザサ)	3	×		・県協定によるシカ柵 ・シカ捕獲(一斉)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修 ②県と連携しながら、必要に応じて 新たな柵を設置	15未満	5	
希少	2		英彦山・鶯モ ミ等	モミの大木が多く、スギ、ブナ、ケ ヤキ等も混生し、北九州では比類 できないほど優良な林相	2・4	△		県協定によるシカ柵		15未満	5	
希少	6	犬ヶ岳ブナ等遺伝資源	・群落(ブナ、イヌシデ-ウリハカエ デ-クマザサ)	3	△		・県協定によるシカ柵 ・シカ捕獲(局署、一 斉)	【捕獲】 ①奥地森林における捕獲を実施		7未満	5	
希少	17	対馬 スダジイ等 遺伝資源	豆酩龍良山ス ダジイ等遺伝 資源	イスノキ、アカガシ、イヌマキ等の 天然林に近い照葉樹林は最大級 の規模	3	○(H25モのみ)		・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(わな協定)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②下層植生の回復を図るために新 たな柵を設置 ③既存のシカ柵の巡視と補修	20未満	5	
希少	18		豆酩内院龍良 山神崎スダジ イ等	・スダジイ、イスノキ等の自然性の 高い暖地性照葉樹林 ・自然性、希少性の高いナタオレノ キ群落	3・4	○(H25モのみ)	ナタオレノキ群落	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(わな協定)		対馬ニホンジ カ対策戦略 会議	15未満	5
希少	19		対馬白嶽アカ ガシ等	・本土では高標高部でしかみられ ないアカガシ群落が成立 ・固有種等が見られ植物地理学的 に特異性が高い	2~3	○(H25モのみ)		・シカ捕獲(わな協定)			【捕獲】 ①奥地森林における捕獲を実施	50未満
希少	20	御岳ツシマヤマネコ	ツシマヤマネコの保護	3	○	ツシマヤマネコ	・シカ捕獲(わな協定)		50未満	5		
希少	30	内大臣モミ等	暖帯上位植生の代表的林相の保 存	3	×		・シカ捕獲(署、一斉 捕獲、わな協定)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②下層植生の回復を図るために新 たな柵を設置 ③既存のシカ柵の巡視と補修		50以上	5	
								【捕獲】				

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レ ベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
希少	31	内大臣ゴイシツバメシジミ	ゴイシツバメシジミの保護	3	○	ゴイシツバメシジミ	・シカ柵(金網) ・シカ捕獲(署、一斉 捕獲、わな協定)	①引き続き保護林周辺地域での捕 獲を実施  【その他】 ①保護増殖事業において、ゴイシ ツバメシジミの保護を実施		50以上	5
希少	35	市房モミ等	モミ、ツガ、カエデ等の原生林	3・4	○		・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②下層植生の回復を図るために新 たな柵を設置 ③既存のシカ柵の巡視と補修		3未満	5
希少	36	市房ツガ等遺伝資源	ツガ、ヒメコマツ、ケヤキ等の原生 林	3	△		・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	【捕獲】 ①引き続き保護林周辺地域での捕 獲を実施		3未満	5
希少	37	市房ゴイシツバメシジミ	ゴイシツバメシジミの保護	3	○	ゴイシツバメシジミ	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	【その他】 ①保護増殖事業において、ゴイシ ツバメシジミの保護を実施		3未満	5
希少	28	雁俣山モミ等	・ブナ、ツガ等の天然広葉樹林 ・カタクリの自生地	1~3	○		・カタクリ保護のため のシカ柵 ・シカ捕獲(わな協定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修		40未満	5
希少	62	冷水サツマシダ等	・川内川上流域に分布する暖帯林 の代表的林分 ・サツマシダ等約70種類のシダが 生息している貴重な地域	3	○	サツマシダ	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(署、一斉捕 獲)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修	保護林全域 を柵で囲って いる	15未満	5
希少	63	紫尾山ブナ等遺伝資源	・アカガシ、ウラジログシ、ブナ等の 針広混交林 ・シラキ-ブナ群集の分布南限	3	△	シラキ-ブナ群集の 分布南限	・シカ柵(ネット) ・シカ捕獲(署、わな協 定)	【防護】 ①既存のシカ柵の巡視と補修		50未満	5
希少	45	大石榎山アカガシ等	・自然性の高いミヤマシキミ・アカ ガシ群集 ・スギラン、マツラン、セッコク等の 希少植物の生育	3	○	ミヤマシキミ・アカガシ 群集	・シカ捕獲(署、一斉 捕獲、わな協定)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②新たな柵を設置		30未満	3
希少	50	国見山ツガ等	・自然性の高いコガクウツギ-モミ 群集が残されている貴重な地域 ・コウヤマキのほぼ南限	3	○	コウヤマキ群生の生 育南限 コガクウツギ-モミ群 集	シカ捕獲(わな協定)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②新たな柵を設置		25未満	5
希少	64	ヒノタニシダ	・スギ、シイ・カシ類の混交林 ・シダ類が多く、希少種のヒノタニシ ダが確認されている	3	○	ヒノタニシダ	・シカ捕獲(署)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②新たな柵を設置		40未満	5

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
希少	65	川添タブノキ等遺伝資源	・着生植物の多様性、腐生植物の生育し、原始的な照葉樹林	3	○		・シカ捕獲(署・一斉捕獲)	【防護】 ①保全エリアの検討 ②新たな柵を設置 ③川添国有林1032林班の低標高地の林分でエドヒガンの生育が確認されており、保護林の拡大等も検討		3未満	5
希少	38	久木野アカガシ等遺伝資源	・国際生物学事業計画(IBP)の特別研究区域に指定されるなど、学術的価値の高い照葉樹の天然林が残っている ・熊本県自然環境保全地特別地区	—	○		・シカ捕獲(一斉捕獲)	【防護】 ①R2年度モニタリング結果を踏まえて、保全エリアを検討 ②対象種や希少種を中心に新たな柵を設置  【捕獲】 ①保護林周辺地域での捕獲を実施		3未満	2
希少	40	権現岳シオジ等遺伝資源	シオジ、ブナ、ケヤキ等や高山植物の原生林	—	△		・シカ捕獲(一斉捕獲)	【防護】 ①R2年度モニタリング結果を踏まえて、保全エリアを検討 ②対象種や希少種を中心に新たな柵を設置  【捕獲】 ①保護林周辺地域での捕獲を実施		1未満	3
希少	9	城山タブノキ等	上畑タブノキ等 シイ、タブノキ等の天然広葉樹林	—	×			①シカの動向に注意しながら、引き続きモニタリングを行う ②必要に応じて柵を検討		—	0
希少	10		狩倉スダジイ等 シイ、タブノキ等の天然広葉樹林	—	△				—	0	
希少	16	九千部山ブナ等	ブナ、アカガシ林は九州西部に残る希少な植物群落	—	△	ブナ、アカガシ林		①シカの動向に注意しながら、引き続きモニタリングを行う ②必要に応じて柵を検討		—	—
希少	51	双石山タブノキ等遺伝資源	ツブラジイ、カシ類、タブノキの照葉樹林で九州地方に残存する自然林として学術上貴重な地域	—	×		・シカ捕獲(署、わな協定)	①シカの動向に注意しながら、引き続きモニタリングを行う ②必要に応じて柵を検討		1未満	0
希少	32	フクレギシダ	フクレギシダの保護	—	○	フクレギシダ		・令和2年度モニタリング結果を踏まえて、対策するか検討する		1未満	0

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
希少	47	椴葉アカマツ等遺伝資源	・アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ等の天然針広混交林 ・林齢150～400年生の原生樹林の森林は大変貴重な植生を維持	3	△	コウヤマキ	コウヤマキの単木防除 ・シカ捕獲(わな協定)	平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する	表土流亡あり	10未満	5
希少	48	尾鈴アカマツ等遺伝資源	・アカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキ等の針広混交林 ・イチイガシ、タブノキの照葉樹林は学術上貴重	3・4	○	コウヤマキ		平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する		7未満	5
希少	49	尾鈴コウヤマキ	コウヤマキ群生地の分布南限で希少価値が高い	3・4	△	コウヤマキ群生の分布南限		平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する		7未満	5
希少	52	八久保イチイガシ遺伝資源	イチイガシの保存	1・2	×		・シカ捕獲(署、わな協定)	平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する		1未満	0
希少	53	蛭尻ツブラジイ等遺伝資源	・ツブラジイ、スタジイ、イチイガシ等の針広混交林 ・サンコウチョウの繁殖場	0～3	×		・シカ捕獲(署、わな協定)	平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する		3未満	0
希少	54	楠見イチイガシ遺伝資源	イチイガシの保存	2	×		・シカ捕獲(署、わな協定)	平成31年度モニタリング結果も踏まえて、どこを対策するか検討する		5未満	0
希少	66	面縄リュウキュウマツ遺伝資源	リュウキュウマツの保存	—	△	リュウキュウマツ ヒョウタンカズラ外		・平成31年度モニタリング結果を踏まえて対策を検討(マツがないかも)		—	—
希少	68	神野イスノキ遺伝資源	・イスノキの保存 ・大隅半島緑の回廊の一翼	—	△			・令和2年度モニタリング結果を踏まえて、対策するか検討する		—	5
希少	69	山添タブノキ等遺伝資源	・タブノキ、イスノキ等の常緑広葉樹林 ・大隅半島緑の回廊の一翼	—	×			・令和2年度モニタリング結果を踏まえて、対策するか検討する	サンコウチョウ確認	1未満	5
希少	70	洞河原タブノキ等	・ヘツカラン等の南方系の着床植物が多く生育する自然性の高いムサシアブミ-タブノキ群集で希少な群落 ・ヘツカランの自生地として非常に重要な植物群落	—	○	ムサシアブミ-タブノキ群集 ヘツカラン		・令和2年度モニタリング結果を踏まえて、対策するか検討する		1未満	5
希少	71	高野スタジイ等	イスノキ-ウラジロガシ群集が成立し、ヤッコウ等の九州南部を南限とする南方系の種が生育し、自然性の高い希少な植物群落	—	△	九州南部を北限とする南方系の種が生育		・令和2年度モニタリング結果を踏まえて、対策するか検討する		—	5
希少	44	柏山アカマツ遺伝資源	アカマツ天然林の保存	3	×	アカマツ	・保存エリア内の樹幹注入 ・シカ捕獲(局署、一斉捕獲、わな協定)	樹幹注入を実施		50未満	3

保護林※1				保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
						希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
希少	72	種子島 ヤクタネゴヨウ等	種子島ヤク タネゴヨウ等	・イヌマキ、ナギ等の暖帯南部の多 雨林的林相 ・ヤクタネゴヨウと種子島の代表的 天然林相の保存	3	○	ヤクタネゴヨウ	ヤクタネゴヨウの樹幹 注入	樹幹注入を実施		50未満	5
希少	73		早稲田川ヤク タネゴヨウ		ヤクタネゴヨウ	ヤクタネゴヨウ	ヤクタネゴヨウの樹幹 注入				50未満	5
希少	74	瀬切川ヤクタネゴヨウ		・他のヤクタネゴヨウ保護林より規 模が大きな個体群 ・ヤクタネゴヨウを含む針広混交林 を保護	3	○	ヤクタネゴヨウ	・ヤクタネゴヨウの樹 幹注入 ・シカ捕獲(署、わな協 定)	樹幹注入を実施		50未満	5
希少	26	北向山スギ等遺伝資源		・スギ、コナラ、クヌギ等の保存 ・九州中央部に残存する自然林と しては学術上高く評価	3・4	×			対策が必要な保護林か検討		20未満	0
希少	34	崩川内モミ等		モミ、ツガ、ブナ等の広葉樹等老齢 の針広混交林	3・4	○		・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	対策が必要な保護林か検討		25未満	5
希少	46	二上ケヤキ		ケヤキ優良天然性林の保存	3	×		・シカ捕獲(一斉捕獲)	対策が必要な保護林か検討		20未満	5
希少	55	重永カヤ等遺伝資源		・常緑広葉樹と落葉広葉樹が混合 する天然林 ・カヤ、ケヤキ、ミズメ、ウラジロガ シの保存	3・4	×		・シカ捕獲(局署、一 斉捕獲、わな協定)	対策が必要な保護林か検討	表土流亡あり	50未満	0
希少	61	冷水イチイガシ等遺伝資源		タブノキ、アカガシ等の川内川上流 域に分布する暖帯林の代表的林 分	3	○		・シカ捕獲(署・一斉捕 獲)	対策が必要な保護林か検討		20未満	5
希少	3	立花山クスノキ遺伝資源		クスノキ群生地の北限といわれる 原生林がある	1	△	クスノキ群生地の北 限		モニタリング		15未満	3
希少	4	小石原スギ 遺伝資源	小石原スギ遺 伝資源	行者スギの保存	2・3	×		・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	モニタリング		7未満	3
希少	5		行者スギ		3	×		・シカ捕獲(一斉捕 獲、わな協定)	モニタリング		7未満	3
希少	7	音滝山アカマツ等		アカマツ、クロマツを主体とした針 混交林で北九州を代表する天然林	—	×			モニタリング		3未満	0
希少	8	大根地アカガシ等		アカガシ、タブノキ等の天然広葉樹 林	—	×			モニタリング		1未満	3
希少	11	若杉山スギ		スギ老齢人工林の保護	—	△			モニタリング		10未満	3

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/km <sup>2</sup>	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/km <sup>2</sup>
希少	12	唐泉山スタジイ遺伝資源	スタジイの保存	—	×			モニタリング		—	—
希少	13	浮岳アカガシ遺伝資源	アカガシの保存	—	×			モニタリング		—	—
希少	14	脊振山ブナ等	スギ、ブナ、カエデ等の温帯性天然林	—	×			モニタリング		—	—
希少	15	山砥スタジイ等	スギ、タブノキ等の温帯性天然林	—	×			モニタリング		—	—
希少	21	萱瀬スギ	萱瀬スギ老齢林の保存	—	×			モニタリング		—	—
希少	22	萱瀬ヒバ	萱瀬ヒバ老齢林の保存	—	×			モニタリング		—	—
希少	23	小浜クスノキ	クスノキ人工林のお保存	—	×			モニタリング		—	—
希少	24	野岳イヌツゲ	イヌツゲ群落の保存	—	△	イヌツゲ群落		モニタリング		—	—
希少	25	水源スギ等	スギ、ヒノキ老齢林の保存	—	○		・シカ捕獲(一斉捕獲)	モニタリング		3未満	0
希少	27	金峰山スギ等	スギ、ヒノキ、サワラ老齢林の保存	—	△			モニタリング		—	0
希少	29	吉無田スギ	旧藩木の保存	2	×		・シカ捕獲(署)	モニタリング		10未満	5
希少	33	釈迦院スギ	釈迦院スギの保存	3・4	○		・シカ捕獲(一斉捕獲)	モニタリング		20未満	5
希少	39	大河平モミ等遺伝資源	モミ、ウラジロガシ、ミズメ等針広混交林	—	△		・シカ捕獲(署、一斉捕獲、わな協定)	モニタリング		20未満	2
希少	41	兵戸山モミ等遺伝資源	モミ、アカシデ、ミズナラの天然林	—	×		・シカ捕獲(一斉捕獲)	モニタリング		1未満	3
希少	42	坊ガヅルサワグルミ等遺伝資源	サワグルミ、ミズメ、ハリギリの天然広葉樹林	—	△		・シカ捕獲(署・一斉捕獲、わな協定)	モニタリング		1未満	3
希少	43	黒岳ミズメ等遺伝資源	ミズメ、ブナ、アカシデ等の天然広葉樹林	—	×		・シカ捕獲(署・一斉捕獲、わな協定)	モニタリング		25未満	3

保護林※1			保護林の概要 (設定目的、対象種等)	シカ被害レベル  平均 4→赤文字 3→青文字 2→黒文字	生育・生息状況		現在行っている 保護・管理対策	今後の対策	備考	参考	
					希少種※2 ○:国内希少種、 RD(環境省) △:RD(各県)、天 然記念物のみ	個体群(生物群集) ・希少化している 植物群落 ・分布限界域				現在のシカ 生息密度 (H26年度環 境省調査) 頭/k㎡	目標シカ生 息密度 (各県特定鳥 獣管理計画) 頭/k㎡
希少	56	青井岳カヤ遺伝資源	カヤ大径木の保存	—	×		・シカ捕獲(署・一斉捕獲)	モニタリング		1未満	0
希少	57	四家イチイガシ	イチイガシ人工林の保存	—	×		・シカ捕獲(署・一斉捕獲)	モニタリング		10未満	0
希少	58	三ツ岩オビスギ遺伝資源	オビスギの保存	—	○		・シカ捕獲(わな協定)	モニタリング		—	0
希少	59	大矢取クスノキ等遺伝資源	クスノキ老齢林(人工林)の保存	—	×		・シカ捕獲(わな協定)	モニタリング		1未満	0
希少	60	滝山スダジイ等	アラカン、シイ類等の広葉樹高齢天然林	—	○		・シカ捕獲(わな協定)	モニタリング		—	0
希少	75	船浦ニツパヤシ	ニツパヤシの自生地北限で植物地理学上重要	—	○	ニツパヤシの自生地北限		モニタリング		—	—